

# らいふプラス

## 震災 お金の備え

上

震災への備えは様々あるが、中でもお金は被災直後にどれくらい必要だろうか。銀行が使えないこともあるし、現金の用意は欠かせない。東日本大震災の被災地で起きたことを参考に、震災を生き抜くお金の備えを2週にわたり考える。

「家族4人の生活資金として現金と貯蓄で120万円用意していた。おかげで避難生活を乗り切れた」。福島県南相馬市に住むフアイナンシャルプランナーイナナンシャルプランナー(FP)の佐藤光一さんは、半年ほど続いた避難生活をこう振り返る。

自宅は福島第1原子力発電所から22キロほど。避難指示が出された20キロ圏に近く、震災後、食料などの確保や他地域への避難費用が必要になった。このケースで考えてみよう。

### カードは使えず

2011年3月11日午後2時46分、震災発生時に佐藤さんは近所を散歩中だった。倒壊の恐れのある扉や電信柱に近寄らないように歩き帰宅。幸い家屋に大きな被害はなかった。

まず手を打ったのは水の確保だ。当初は水道が使えなかったため、飲み水を鍋やかかんにでざる限りためた。すぐに断水したので、効果は大きかった。幸運だったのは電気が途絶えなかったこと。冷蔵庫で冷凍したおにぎりを食べ、テレビのニュースを見て夜を明かした。

翌12日朝、テレビで近所のスーパーが再開したことを知る。買い出しに出かけると行列ができていた。価格は普段通りだが、クレジットカードは使えず支払いが現金のみ。購入制限はない。

# 収入ゼロ想定 生活費蓄え

問題はお金。携帯電話も含め電話がほとんど通じないことだった。公衆電話も不通で親戚と連絡が取れない。そんな中、福島第一原発1号機の水素爆発のニュースが流れた。夕方、政府が避難指示を福島原発半径20キロ圏内に拡大。避難という選択が現実味を帯びてきた。

確保した飲料水は13日には早くも心もとなくなってきた。そのため近所のわき水をくみに行った。翌14日に福島第1原発3号機で新たな水素爆発。佐藤さんは東京の実家への避難を決めた。

お金がかかったのはここからだ。15日、車に食料品や

東日本大震災後、食料を求めコンビニエンスストアには長蛇の列ができた(2011年3月13日、仙台市)



着替え、寝袋、現金や通帳・印鑑も積み、まず福島県伊達市の避難所へ。その後は東京の親戚宅を転々とし、

### 発生直後

## 現金で食料確保

### 避難生活

## 平時より出費増

4月から新潟県上越市の避難施設で暮らした。震災後3カ月間の支出は、食費や移動費用など生活費が69万円。避難先で暮らすための家電購入費15万円を合わせると84万円に上り、月20万円の想定を大きく上回った。収入は5月下旬に国と県から支給された義援金40万円と、東京電力の避難住民への仮払金100万円。だが、必ず支給されるとは限らない。家族4人なら、震災後3カ月で100万円ほどかかると考えた方がよさそうだ。

金融庁によると、東北6県と茨城県に本店を置く金融機関約2700店舗のうち、3月14日に休業していたのは1割強の約280店舗。震災翌日の土曜日に開店した金融機関さえあった。被害が甚大だった地域でも5月には自動車の移動式ATMが巡回した。しかも金融庁の指示で通帳やカード、印鑑がない場合も、免許証や健康保険証などがあれば預貯金の払い戻しに応じていた。被災後、金融機関はかなり頼れる存在だったのは確かだ。

現金の用意は数万円程度あるとよいだろう。コンビニエンスストアで、3月13日時点で休業していたのはセブンイレブンとローソンの場合、被災地店舗の4割ほど。半数以上は営業していた。当日に再開したスーパードも多かった。

問題はおつりを用意できない店が多かったこと。佐藤さんは「一万円札だけでなく小銭を用意しておくべし」と振り返る。佐藤さんが南相馬の自宅に帰宅したのは半年後の9月18日。だが、津波や原発事故で避難生活がさらに長引いている人も多い。佐藤さんより長引くと想定するなら、どれだけ必要か。

FPの高田晶子さんは「1年分の家族の生活費を確保しておけば、余裕をもって生活再建に動ける」とみる。家族4人で月に20万円かかると考えるなら240万円。簡単に用意できる金額ではないのは確かだ。ただ、地震国に暮らす以上、自らと家族の命を守る備えはおろそかにできない。「定期預金などで確保することが大切」と高田さんは指摘する。(田中裕介)

被災地の金融機関(約2700店)	コンビニ(セブンイレブンとローソンの約2350店)
2011年3月11日 震災発生。電話が不通、水道も発生後すぐに断水。電力は確保	
12日 スーパーに行列。食料品を購入(4000円程度) 福島第1原発で爆発。半径20キロ圏内に避難指示	
13日 屋内待機	4割にあたる約1000店が休業
14日 避難準備開始	1割強(約280店)が休業
15日朝 車で福島・伊達市の体育館へ。避難生活に	
4月1日 東京の親戚宅を経て新潟県上越市の避難所へ	
4月中旬 避難住宅に移る	休業は約140店に縮小(11日時点) 休業は100店以下に
9月中旬 南相馬市の自宅に戻る	

(注)店舗数は青森・秋田・岩手・宮城・福島・山形・茨城県分。ただし、セブンイレブンの青森・秋田県内分を除く

佐藤さんの準備資金	半年分の生活費 = 1カ月20万円×6=120万円	震災直後は普段の生活以上にお金がかかると想定しよう	
震災後3カ月でかかった費用	生活費(食料や衣類、ガソリン代など)		=1カ月23万円×3=69万円
	他の出費(生活家電の購入など)		=15万円
		合計84万円	

# おさいふナド

## 豪雨に降られる

ザーっという大きな音が、建物の外から響いてくる。子どもを小脇に抱えた、私のようなお母さんが、同じく玄関の前で「あーあ」と残念そうにため息をつく。私も、家に干しっぱなしの洗濯物のことを思っただけ。全身から力が抜ける。

## プロムナード

「今出て行ったら、かえって濡れただけだから、ちよとよかったかも」「そうですね」「家、お近くですか?」「それまで一度も話したことがなかったお母さんと、雨を眺めて世間話。その間にも、ずぶ濡れで駆け込んでくる他のお母さんの中に入ってきて、雨宿りの人が増え

辻村 深月



ていく。

見てみると、大人の私より、子どもの方が、お母さんたちともよほど顔見知りだった。「あ、ひさしぶり」と1人のお母さんがうちの子に言う。と、子どもも一人前に「あ」と手を上げて応える。普段、すぐに傘を後にしてしまふからわからなかったが、どの子と仲がいいのかも、雨宿りを通じて見えてくる。雷がゴロゴロ

口と鳴り響き、空が光ると、子どもたちの悲鳴が上がる。ただ、その声の中に、怖がっている声と、興奮してはしゃぐ声が半分ずつ混ざって聞こえる。泣きそうな顔をしてお母さんの腕を掴む子の横で、うちの子は、怖がるふりをして、どきどきにまぎれて雨の中を出て行きたがり、それを止めるのが一苦労だった。

雨がやみ、外がだんだん明るくなる。誰かが、文字通り晴れやかな声で告げた「やんだみたい」という声を合図に、みんな、外に出る。太陽が、木々の間にしたたる雨に降り注ぎ、空も地面も、眩いほどの光に輝いていた。「じゃあね」「またね」と、さつき初めて言葉を交わしたお母さんたちと、まるで昔からの知り

合いのように挨拶して別れる。1人のお母さんが、妹が乗るベビーカーを押しながら「お兄ちゃんやめて」と坂道を逃げていて、何だろう? と顔を上げ、はっとする。彼の手の中に、どこか捕まえたのか、手のひら大のカエルが2匹。「お母さん、見てみて」と持ってこようとしているのを見て、私も「きゃー」と叫んで、一緒に逃げた。

逃げながら、息を切らしたそのお母さんに「ごめん」と謝られ、私も早口で「いいよ。それより、カエルが怖くないなんて勇ましい」と叫ぶように応える。そのまま、彼女たちと曲がり角で別れる。その間、ベビーカーの中のうちの子は、ずっと笑っていた。

夏の日、突然の雨宿りがもたらしてくれた時間は、思いのほか、悪くなかった。(作家)



Q 最近よく聞く「金融所得一体課税」とは何ですか。

## 金融所得一体課税とは 運用の損益相殺を拡大

主な金融商品の運用益の課税方法

売却益	申告分離課税
ト場株式	申告分離課税、